

第四問

(満点 100点)

第三問とあわせ
時間 2時間

下記の問に答えなさい。

- 問1** 税効果会計では、回収可能性のない繰延税金資産と支払可能性のない繰延税金負債を計上してはならない。繰延税金資産について回収可能性が認められる場合を、具体的に述べなさい。
- 問2** 外貨建長期金銭債権債務の決算時の換算については、取得時または発生時の為替相場により円換算すべきとする見解と、決算時の為替相場により円換算すべきとする見解がある。両説を比較検討しなさい。
- 問3** 自己株式を売却処分したときに自己株式処分差損が発生する場合がある。自己株式処分差損に関する現行の会計処理について述べなさい。さらにこの会計処理を、「資本取引・損益取引区分の原則」に照らして論じなさい。
- 問4** ファイナンス・リース取引が資産及び負債として貸借対照表上に計上される根拠として割賦購入説と利用権説（使用权説）がある。両説について説明した上で、わが国の会計基準がいずれの説に依拠しているかを述べなさい。